

## 5. 結果

### 5.1 線量率マップ

空間線量率分布図を Fig. 5-1 に示す。原子力発電所から北西に放射線量の高い区域が広がり、原子力発電所から 100 km の地点で折り返すように、南西方向に比較的線量の高い地域が、栃木県から群馬・埼玉県まで広がっている。また、茨城県から千葉県にかけて広い範囲で線量率が  $0.1 \mu\text{Sv/h}$  ～  $0.2 \mu\text{Sv/h}$  とやや高い地域が見られた。さらに、線量率が相対的に高い地域が、中国地方や九州地方の中部、長野県や岐阜県、富山県などにも散見された。これらの地域は花崗岩と見られる地質データとも符合しており、天然核種の影響と考えられた。各県の放射線量、放射性セシウムの沈着量の拡大マップを Appendix 5 に示す。

### 5.2 放射性 Cs の沈着量マップ

放射性 Cs の沈着量の分布図について Fig.5-2 に、 $^{134}\text{Cs}$  及び  $^{137}\text{Cs}$  の分布図についてそれぞれ Fig. 5-3、5-4 に示す。地表面での放射性 Cs ( $^{134}\text{Cs}$ 、 $^{137}\text{Cs}$ ) の沈着量は、放射線量と同様に、原子力発電所から北西に放射線量の高い区域が広がり、原子力発電所から 100 km の地点で折り返すように、南西方向に比較的線量の高い地域が、栃木県から群馬・埼玉県まで広がっている。一方、中国地方や九州地方の中部、長野県や岐阜県、富山県などの線量率が高い地域では、放射性 Cs のスペクトルはほとんど認められず、線量率が比較的高い地域でも、放射性 Cs の沈着量は  $10 \text{ kBq/m}^2$  以下となった。

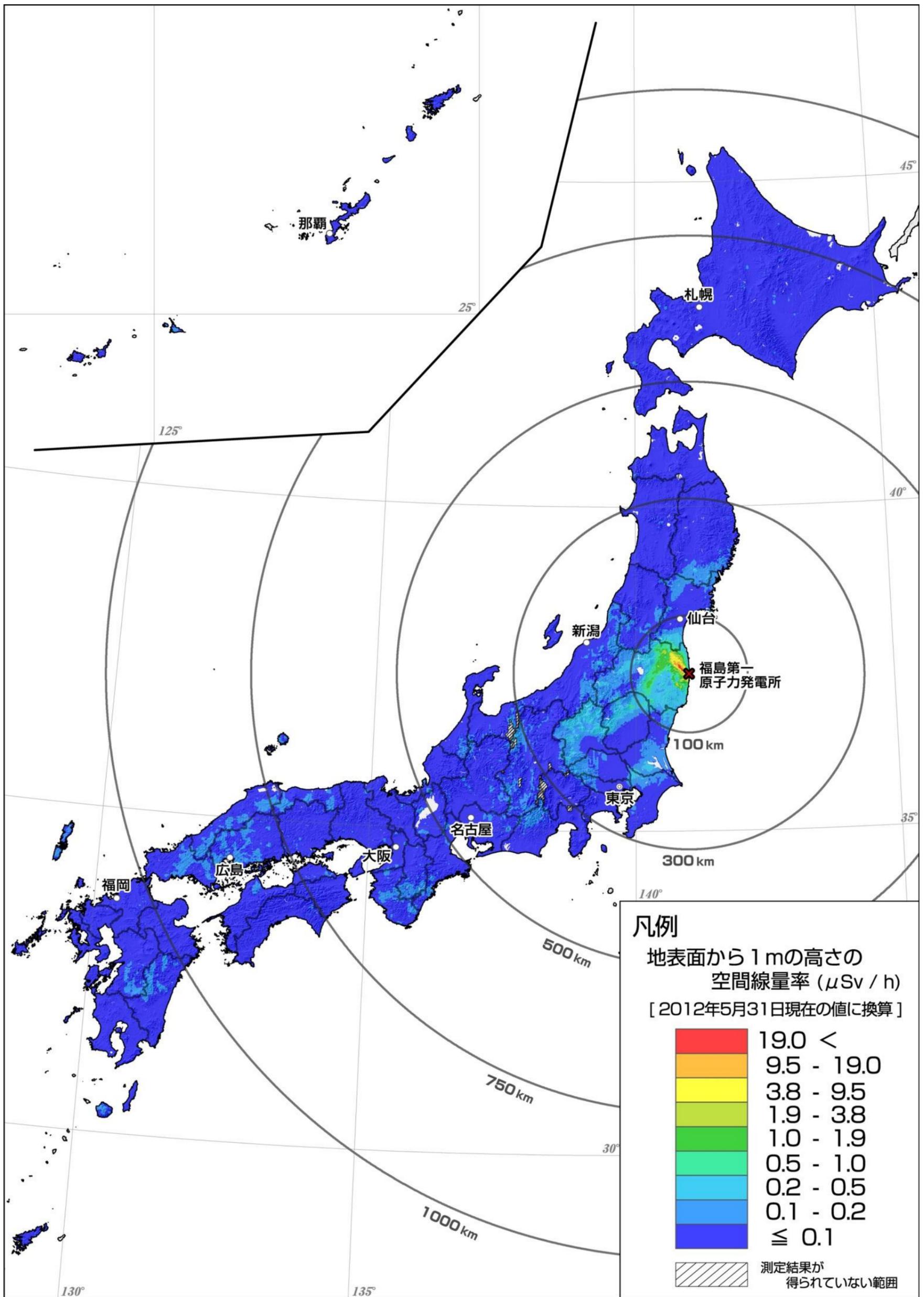


Fig. 5-1 Dose rate of Japan (This result includes the influence of natural radioactive nuclides.)

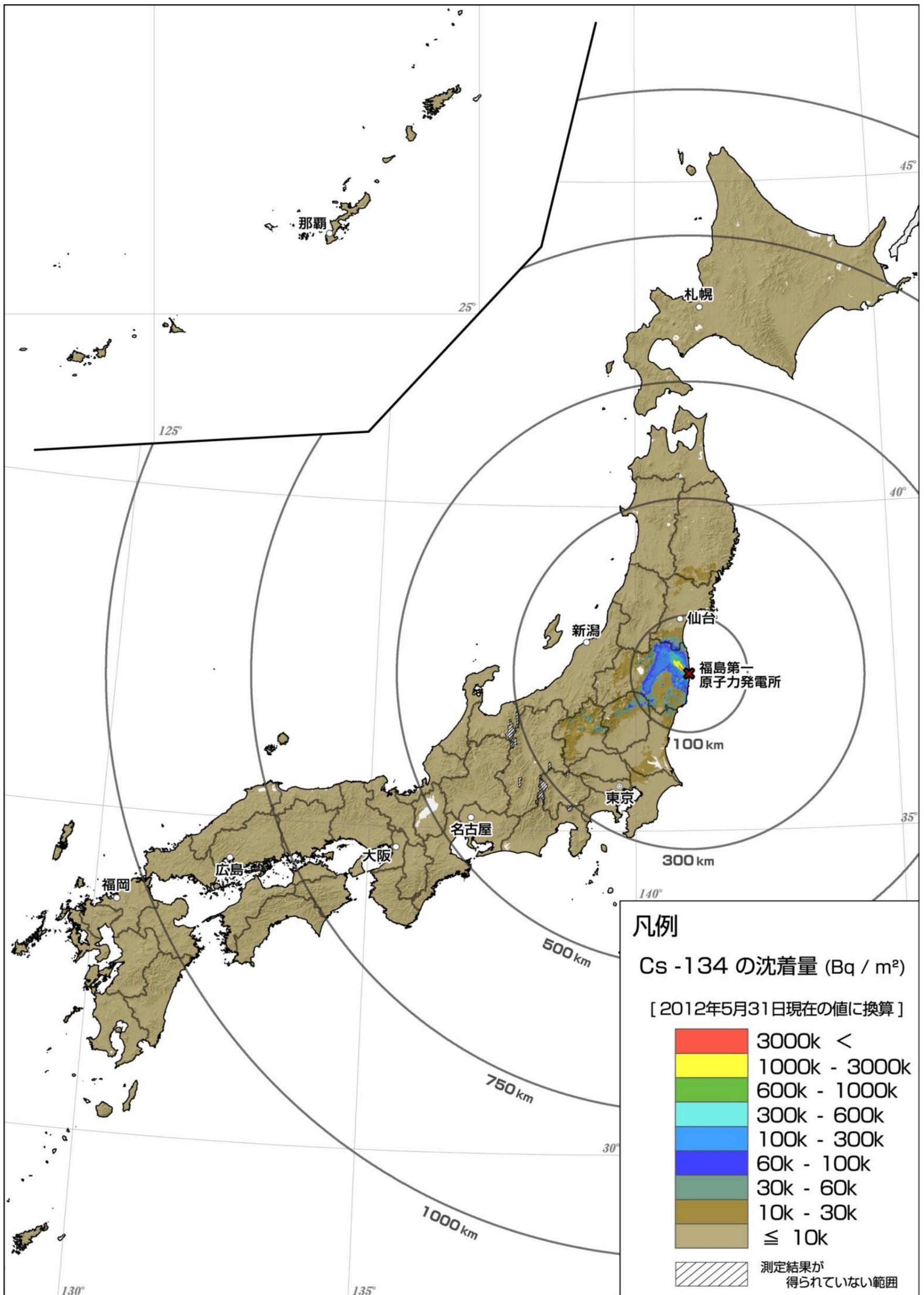


Fig. 5-2 Deposition of <sup>134</sup>Cs in Japan

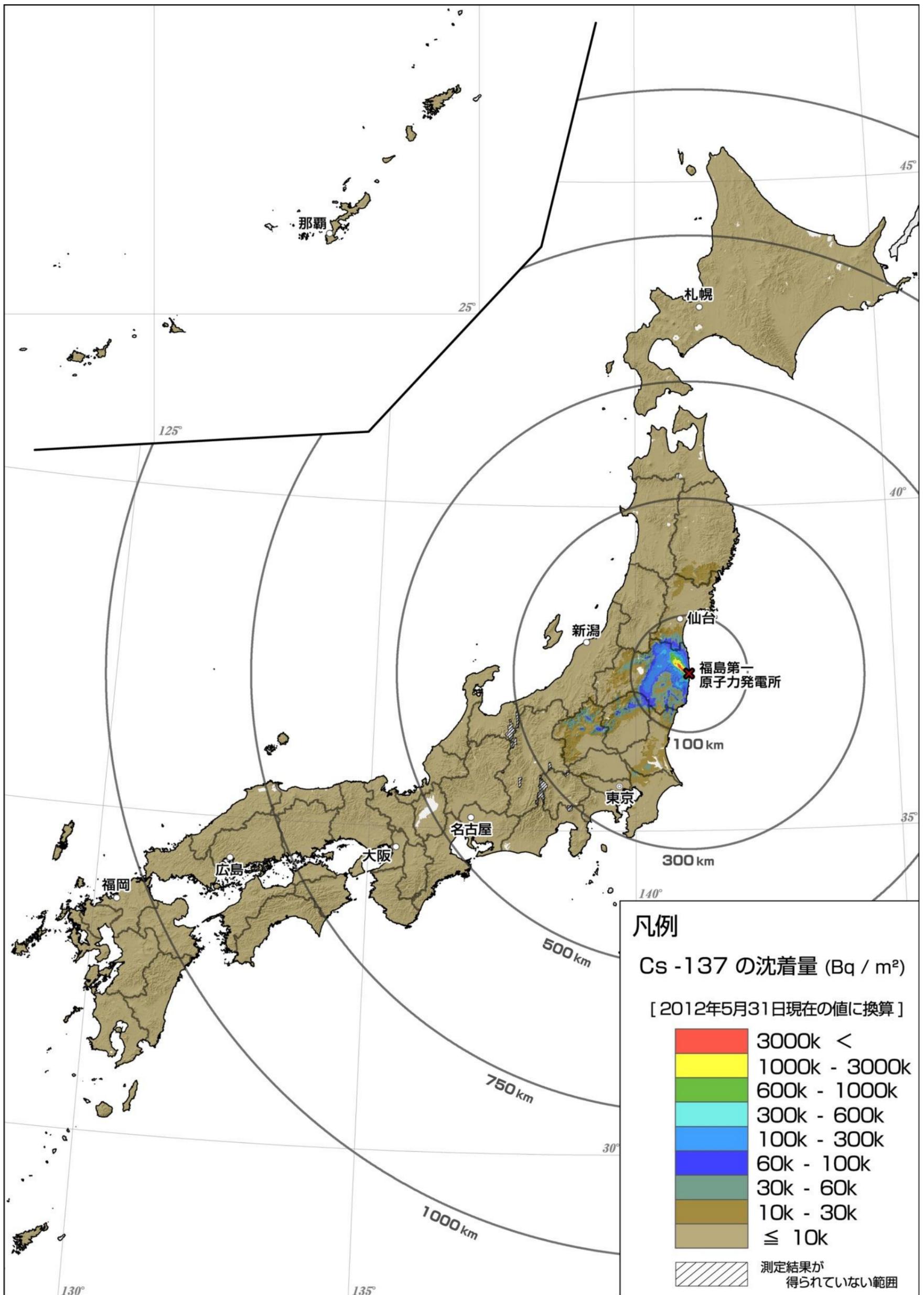


Fig. 5-3 Deposition of <sup>137</sup>Cs in Japan

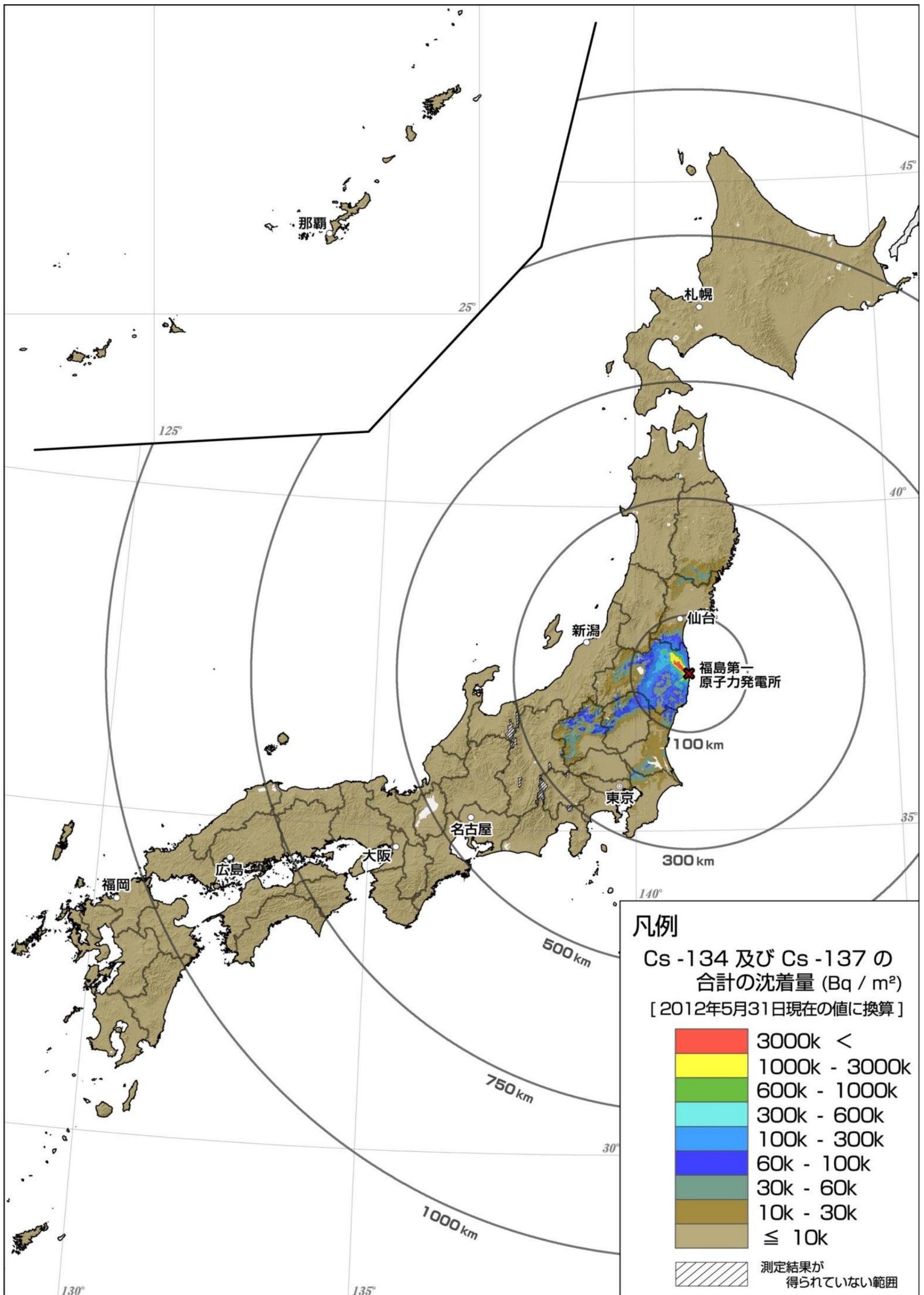


Fig. 5-4 Deposition of <sup>134</sup>Cs+<sup>137</sup>Cs in Japan